

中斎塾 東京フォーラム
平成 26 年度 第 11 回講話

平成 26 年 12 月 13 日
於 湯島聖堂

猪瀬理事長が最初に話すと良いですね。最初に、おっこれはと思う話が出ると、私も滑らかに話しが出来るので、これは良いことだと思います。それで猪瀬理事長から事前に注文がありました。「来年は明るくなるという話を最期にしてください」と。塾長の話を聞くと、重い苦しい話が多くて、それで終わるから最期は明るい話にしてくださいと言われましたが、何が良いだろうと相談したら天風先生の話をしようかとなりました。猪瀬理事長は、真・善・理が好きだから、後で解説をして頂いても良いと思います。

私がお話させていただく中で、けっこう出すのが師匠の木内信胤先生、それから安岡正篤先生の話をしています。天風先生の話は、中身が濃く役に立つ話が出来ると思っています。自分の知っている話とちょっと違うなと思ったら、どうぞ途中でもいいから、さえぎって言ってください。

紹介書籍

『税高くして国亡ぶ』 渡部昇一著 ワック出版

今日お話をしようと思っているのは税金です。先ほど、谷口幹事が面白いものを出していました。

「働いたら罰金、これは所得税。買ったら罰金、消費税。持ったら罰金、固定資産税。乗ったら罰金、自動車税。飲んだら罰金、酒税。吸ったら罰金、たばこ税。死んだら罰金、相続税。貰っても罰金、贈与税。生きている罰金、住民税」最期が非常に良くて、「働かないと賞金、生活保護」これは面白いですね。

木内信胤先生は「援助や助成などという話は、相手を侮辱することだという事を覚えておきなさい」という話がありました。

渡部昇一さんの話しを紹介しますと、古代は税金 10%が当たり前である。10%を超すと拒否運動がはじまる。古代の教会は立派な建築をするけれども、教会建築時の費用は 10 分の 1。10%の税金でまかなっていた。近代になって 20%の税金を取るようになると脱税が起こる。25%を超すとインフレが起きる。インフレが起きるということは、お金の価値が

下がるという意味です。30%が分岐点で、35%になると危機が発生し、この本の中では36%で断崖がけっぷちに立って、今にも落ちる寸前。危機に直面するのが36%であると書いてあります。

前にも申し上げましたけれど、イギリスが覇権国家で無くなった時は96%の富裕税を取り、普通に働く人に対して92%の税金を掛けた。掛けすぎですね。

これから日本も、もし突如として皆さんに大金が転がり込んで大金持ちになると、92%の富裕税が掛かる。あまり大金持ちにならないほうが良いかもしれない。この本に書いてありますが、入ってきたお金はみな出ることになっています。だからあまりケチケチしないで、お金がたくさん入ってきたら、どんどん使いなさい。

ちなみに江戸時代の納税は、だいたい3公7民ですね、これが順調。これが5公5民になったら、むしろ旗が立つ。今の日本はそういう状況ですから、むしろ旗が立ってもおかしくないのに、どうして立たないのだろうと思っています。

論語の視点

今日の素読は非常に良かったです。短い方が良いです。

子路 第十三

【一】子曰く、魯衛の政は兄弟なり。

この間、二松学舎で話をしていたら、私共は他の国と交換留学や協定を進めていて、12月8日はミャンマーのヤンゴン経済大学と協定を結びましたとの話がありました。大学案内のちょっと分厚い本がありまして、見ていましたら比田井副理事長のご先祖様が載っていました。二松学舎の誇る関係のある勉強をした人、比田井副理事長のご先祖様。

ここの「魯衛の政は兄弟なり」の説明ですが、孔子が言うには、ご先祖様は偉かった。魯と衛の創業者は兄弟だった。魯・衛の国王同士は兄弟でスタートして、二代、三代と下って今の有様はなんだと。悪くなる時は、あの兄弟の子孫は同じ様に悪くなっているじゃないかという話です。

でも大体、初代がまあまあよくて二代目はどうにか守る。三代目で潰す。大体そういうふうになっておりますから、けっこう魯・衛も頑張っただけで続いたほうだと思います。

【二】子衛の公子荆を謂う。善く室に居る。始めて有るときに曰く、苟かも合うと。少しく有るときに曰く、苟かも完しと。富んに有るときに曰く、苟かも美しと。

これを読んで思い出したのは、私の学生時代、夜中にアパートを訪ねて来た人がいたの

で開けると友達だった。昼間その友人と話をしている、「あの娘はいいね、ああいう娘と一緒にになりたい」という話もしていた。この友人の好きな女性はこういう女性かと思っていたら、連れて来た女性は全然違う女性だった。部屋に入れて欲しいというので部屋に入れたら、その女性とは今日初めて会った人で、一目惚れしてプロポーズしたら相手が受け入れてしまった。さて、どこに連れて行こうかと思ったけれど、お金はないし、寒いし、どこか暖かい所に行こうかと思った時に、そうだと思いついて夜中に私の部屋に来たのでした。まだ覚えているけれど、たまたま雑誌の付録に付いていた「愛と死をみつめて」の曲を流してあげた。それで一晩話をし一晩明けても一緒にになりたいという気持ちが変わらないので結婚式をやってあげないといけないなと思った。その時は試験の真最中だったが試験は関係ないやと思って同輩から後輩みんなに声をかけて集め、その日の夜、飯田橋の焼き鳥屋の2階で結婚式まがいをやりました。無事に結婚式を終えましたが、これから一緒に住む部屋が無いぞと思って、私は「ここの部屋を使え」と言って、自分の記憶では柔道着だけ持って出たと思っていましたが、後で転がりこんだ先話を聞くと「あの時、先輩は汚い靴下と道着を持ってきたんです」と言っていました。ということで、所帯道具とか勉強道具を全部あげました。あとから親に怒られたことは「自分の物をあげるのは良いが、親はお前のためにと考えて渡した釜とか鍋はどうするんだ」と言われたが、あげてしまったんだから返せと言えぬわけがない。友人は親に「内緒で結婚するとは、けしからん。勘当だ」と言われ、勘当されてしまった。私は親から勘当はされなかったけれど、しばらくの間、親の所にはちょっと近寄れなかったという事がありました。

ちなみに「子衛の公子 荊を謂う」は、孔子は50代で、70歳を過ぎたお爺さんが昔を振り返っているという会話だと思えばよいです。それで孔子がこの荊というご老人はたいしたものだ、足るを知るという心を十分にご承知している。

そこで、今日の論語の話になります。「善く室に居る。初めて有るときに曰く、苟かも合うと」

「合う」とは、新婚家庭で家財道具が少し揃ってきたようになった時だと考えて下さい。私が若い頃はみかん箱を置いてそこで座って食べていました。新婚の頃になりますと、ご飯を食べる時にみかん箱ではなく小さいテーブルと椅子に座ってご飯を食べられた。これは良かった。家財道具が揃ってきて満足しました。その時は嬉しかったのですが、他人が見たら、まだまだ満足できる状況ではないと言うでしょう。「苟かも合うと」は、その時欲しい物は全部揃ったのではなくて、ちょっとあれも有るといいね、これも有るといいね。でも、これだけあれば、もう満足だということです。

「少し有るときに曰く、苟か完しと」は、どうにか揃ったということです。私は風呂が好きでしたが、新婚の頃は風呂がなかったので銭湯に行き風呂に入るわけです。次の住まいに引越しましたが、引越した理由は部屋に風呂が付いていたからです。この時は部屋に風呂が付いていて良かったなと思いました。また、その頃は家を買いたいと思っていたので

すが殆ど収入らしい収入はなく、不動産屋さんと話をして、朝霞でしたが、なんとか崖っぷちの所にある家を 1 軒買った。小さな家ですけどね、買いました。このテーブルの広さぐらいの庭があって、そこに花を植えて感じが良くてよかった。しかも五右衛門風呂みたいな風呂もある。あれは嬉しかったね。

最初はテーブルと椅子を置きたい。次は風呂に入りたい。これが「苟か完しと」ということです。

このような論語の説明をしますと、身近になります。何か話をする時に、若干でも色々なことに繋がります。今日の素読を聞いていて、ポンポン色々なものが浮かんで来て私は楽しかった。

恒例の質問

12 月だから 1 年間で振り返りましょう。

- ・思い出してみても、嘘をつかない日々がこの 1 年多かったと思う方。
- ・ 1 年間良い日が続いたと思う方、手を挙げてください。

手を挙げなかったから、変だなと思って。私は、良い日が続いていると思って拝見しております。だって健康で、生きていますもの。中国が今、ああいう事だから厳しい状況は分かりますけれども、あとには良いものは残ります。

- ・ 1 年間で有難うと言ひ、有難うと言われることが比較的 1 年間多かったと思う方。
- ・ 1 年間、健康法を実践し続けた。だいたい健康法をやってきたという方。

今日は健康法を何もしなかったなと思ったら、寝たままで息を出して長く吸って息をゆっくりゆっくり吐く。ポイントは、寝る時に疲れたと言って直ぐに寝ないで、入った瞬間に寝る人はしかたがないですが、横になって息をゆっくり吐いて、ゆっくり吸って、ゆっくり吐く。それだけをやれば健康法を実践したことになります。

- ・ 明日を過去形でイメージする。寝る前に明日を過去形でイメージすることが、この 1 年間で 1 回でもした人。

明日を過去形でイメージする。これが出来ると人生変わってくるでしょう。

テーマ「改めて、日本を考える」

矢野弾さんが出している『カレント』12 月号の中で、面白いことが書いてありました。加瀬英明という外交評論家が、神話を研究して宗教を比較することをテーマで書いてあり

ました。ご紹介いたします。

日本は、なにかと言うと母国と言う。父の国、父国とは言わない。だから感覚的に女性がずっと上。男はずっと下。死ぬ時に「お母さん」と言って死ぬのは、当たり前感覚ですが、日本人で「お父さん」と言って、戦争で死ぬ人は聞いたことがない。

日本の神話では天照大神が最高神。女性です。本当かどうか分からないけれども、天照大神の言葉とか聖徳太子が言った事は伝わっています。

これはカリスマ的、絶対的指導者が出て命令を下すよりも、日本は話し合っって結論を出して進める。かたらいの国です。皆さんの意見を集めて、皆さんのよい方向に合議で進めなさいとある。聖徳太子の十七条憲法は、そうであると書いてあります。

加瀬さんの見方は、重要なことは一人で決めてはいけない。大切なことは、全員でよく相談しなさい。

天の岩屋戸の物語も日本らしい。八百万の神々が、「神集（かむつど）ひ集ひまして神謀（かむばか）る」ですが、リーダーが不在であるとあります。他国の神話には、こういう場面はないそうです。

明治 25 年、英語を日本語に直す辞典「雙会英和大辞典」の中に「leadea」リーダーという言葉が、当時の明治時代の説明では「案内する者、教導する者、先導する者、率先する者、巨魁、総理、首唱者」という説明でした。その時には「指導者」は無かった。リーダーという者は、指導者ではなく案内人だった。独裁という感覚も当然ないという事ですから、リーダーという者は日本にはなくて、合議制の議長さんみたいな感覚はあった。日本はそういう国の成り立ちがある。

他の国々はどうなのかと思い読んでみると、ギリシャの最高神はゼウス、これは男。ローマ神話のユピテルも男。北欧神話の最高神は風の神でオーディーンこれも男。エジプトの最高神ラーも男性。インドのヒンズー教も男性。バビロニア神話とかペルシャ神話の最高神マルドゥク、アフラ・マズダーも男性、絶対的な権力を持っているのは、全部男性です。他の国々の最高神は男性で、絶対的な権力を持っている。日本は女性が中心で、みんなだ論議をするという神話が、国の成り立ちに出てきます。

それでまた前にも申しましたが、最近の考古学が変わってきました。

1 万 3 千年から 1 万 6 千年前の日本では縦穴式住居が作られていて、柱は漆の木を使っていた。その頃の食べ物は、漆の木の実を食べて若芽を食べた。木の実とか木の芽を食べたけれど、漆の木を非常に重宝して使っていた。

私は考古学の国家という定義が変わると、日本が世界で最古の文明国家、文化を有していたと、これから 10 年 20 年の間に考え方が変わるかもしれないと思っています。

そうすると、国家の概念は国民が居て土地があり、その国を代表する政府がある行政機関があるという事が国家の成立条件だと言われていますが、1 万 3 千年から 6 千年前の縄文時代は、土地はあり、国民もいる。ただ、集落だから母親を中心にして子供、孫、ひ孫と

いう血縁関係でいるから大体 100 人ぐらいが、ちょうどいい集落。それぐらいの人達が集まり、大きな国家形体にはなっていないが何千年も続いた。

日本の国の成り立ちを考えると縄文時代に端を発している。国家の成立要件が変わりつつあるから、それで見ると世界最古の国家であり文化文明を有する国。他の国に比べて隔絶しています。

従って文明法則史学からいきますと、西洋文明が没落をして東洋文明がまた誕生する。西洋文明から東洋文明へといく 1 千年の歴史の今ちょうど転換期の真っ只中にあるわけです。

今回、また復活をとげる東洋文明は従来の文明の復活とは、だいぶ考え方が変わってきている。中国やエジプト、マヤと比べて隔絶した歴史を有する国。しかも、女系集落。リーダーのいる絶対的な権限の国とまるで違う思考過程。ものの考え方や行動、大切なものを敬う環境風土が違いすぎています。

ひとりの神様を信じる者と大勢の神様を信ずる者と、まるで違う思考形態の異なる民族が新たな形で世界にリーダーシップを発揮するようになるだろう、ただ国々を纏めていくのではなくて、うちはこうやっているから、真似したい人はどうぞ、というふうな進め方だと思います。

時事評論

今、皆さんから「選挙の話は、今日しませんか」と聞かれたので「しません」と言ったら、「してください」と言われました。

この間、妻と一緒に事前投票をしてきました。今は安倍さんが仕掛けたもので、皆さんお金が無いから、与野党とも選挙カーは動かない、事務所開きもしない。無い袖は振れないから選挙活動は出来ない。なお且つ安倍さんは、中曽根さんの死んだふり解散や小泉さんの郵政解散、ここら辺を頭の中に置いて自分の思い通りにしたいために、普通だったら自民党と公明党の支持者、その人達の支援をベースにして投票率そのものでいけば、票は大幅に減っています。だけれども、今の支援者を最大限に活用して、たくさん議席を獲得するには今しかないということでやったわけでしょう。それが効を奏してべらぼうに票をかき集めることになると思います。

週刊誌は、たいしたもんだなと思いました。アンケートをする前は、安倍さんが弱気な発言をしたら弱気に警告した形のニュースを流した。ところが、アンケートを取って見たら自民党の圧勝という話になった。そうするとマスコミは、ころっと言葉を変えて押し寄せになります。マスコミが応援すれば、今の時代それによって世論が変わります。

干支の話と絡めてみましょう。安倍さんの役割は、日本が坂道を転げ落ちる運命を牽引する役割を与えられている総理大臣だと思います。だから彼がやりたいと思うことは、ど

らんとやる。そのための政治環境が整ってくればくるほど、日本は落ち込むでしょう。

来年の干支（乙未 いつび きのとひつじ）

いつも私は白川静先生と加藤常賢先生の辞書を調べ、安岡正篤先生の干支を見ます。白川静先生と加藤常賢先生の解説をじっくり読みますと、先が見えてくる。

今回は面白かった。安岡先生は植物が曲がりくねって伸びていく。乙（いつ）は、曲がりくねるということを書いている。ところが、白川先生や常賢先生は「と、いうふうには世の学者は書くけれども誤りである」二人の大学者がそう書いています。珍しく対立していました。こういうことは楽しいなと思います。

じっくり自分が前に言った科白と、御三方の学説を読みこんでいる内に閃いてきたのは、加藤常賢先生が一番良い。常賢先生は両端が尖っている。切れ味鋭い小刀という解説がありました。白川静先生は竹べらという解釈をしました。

未（び）の説明は、みな同じでした。植物が繁茂して、枝葉が陽も射さないぐらい密集している。

それらを眺めて見えてきたのは、枝葉が密集した本命の所に、切れ味の鋭い刀を持った新しい勢力が現れて、色々な難問をバツバツときれいに薙ぎ払って、けじめをつけるというおりました。

ということは今風に直せば、安倍さんは一見みせかけの勢力を抱える。本当の信頼があつてたくさん議席を抱えるのではなくて、みせかけの物だから烏合の衆にちょっと色をつけた人達がいっぱい集まり新しい与党、巨大与党、さらに巨大化したものが日本の国をどンドンデノミ脱却の方向に進めている。

そうすると今日の新聞を見ますと、原油の動きが安くなって国民には良いなと思うけれども、新聞に書いてあるのは「これは如何なものか」とありました。

マスコミの論調では、原油が安くなると政府が目指しているデノミ脱却に水を差すようになる。だから油が安くなるのはよくないという。これは政府のもって行きたい方向に、新聞は誘導して書いているという感じが致しました。

最近、安倍さんが見据えているのは、やっぱりどうしても自分の父親、祖父が念頭にある。憲法の改正は焦点に入っていく。結果として徴兵制の復活も見える。それからインフレがやっぱり凄まじいものが起きる。ハイパーインフレそういったものが起きる。国債は当然どこかで破裂をする。日本の国は急転直下に落ちる。

そんな事はあるのかなと思ひ考へるのは、自分の収入が1年前と比べてどうだろうか。収入が増えて良かった良かったと、今なっているかどうか。

・1年前と比べて良かった、収入がいっぱい入っていますという方。
ーいない。

そういう事です。新聞では、景気が良くなって収入が増えてお給料が増えてといいますが、どうでしょうか？

ーそうは思わないの？来年はそんなに増えないよ。

そう考えていくと、けして来年は明るくて素晴らしいとは、なかなかいえない。ただ 60 年前を調べますと、ちょうど神武景氣がスタートしています。61 年前の経済白書では、もう戦後は終わったという宣言がでた年です。

三種の神器（白黒テレビ、洗濯機、冷蔵庫）が売れはじめた年。イケイケドンドンの時代です。政治で見ると自民党が新しく誕生した年。自由民主党というのは色々な人達が集まり、合体して自由民主党が発足し、社会党も同じく合併して社会党を結成した。二大政党時代がスタートしたのが 60 年前です。だから新しい時代が始まったというのが、ちょうど 60 年前。ちょうど雰囲気的に来年は勢いづいていますが、よっぽど氣をつけていないと突如としてという事が起こるので、お氣をつけなさいなという事が来年で、そのスタートを切るのが今回の選挙で幕開けです。

選挙と干支の話は、これで終わりにいたします。

肩こり運動

この間、薬剤師さんの講演を聴きました。その方は、小さい頃から肩こりが酷くて、治すために薬を飲んでいました。ハッと氣がついたら 17 種類の薬を飲んでいて、最期の頃は胃が荒れて胃潰瘍になってしまった。何とかして病氣を治したい、肩こりを治したいと思い薬剤師になったけれども、氣がついたら、このお薬は一生のお付き合いですと言って処方して渡していた。

どこかおかしいと思ったそうです。自分が薬剤師になるきっかけは、薬を飲めば治るからだと思っていた。それで薬剤師になったら、一生のお付き合いですよと言い、薬を出すような自分になっていたことに驚いてしまった。そして何が良いかを一所懸命考えて、運動をやってみたら肩こりがなくなり、薬も全部いらなくなり、胃潰瘍もなくなりました。今は、薬は病氣をつくる、だから薬は飲まない方が良くと確信して、そのための運動を続けているそうです。

<肩こりをとる体操>

腕を交互に上・上、前・前、横・横、下・下と突出します。肩甲骨が動いて良いそうです。その方は、後ろに手を組めなかったが、運動をすることによって出来るようになり、ずいぶん上に手が上がるようになった。

こういう運動をすると良いと教わって、家に帰って妻に話したら阿波踊りじゃないかという話になりましたが、一緒に上上、前前とやっています。けっこう効果があります。

あとは、1 運動が大事。2 食事が大事。3 禁煙をしましょう。4 これでも病氣が治らなかつたら薬を飲みましょう。最後は、薬を飲めってやっぱり言うんだなと思いました。

天風先生の話

昭和 22 年の秋、毎日ホールで 250 人にいたアメリカの高級将校たちの前で、天風先生が

生きがいのある素晴らしい人生を送るためにはどうしたら良いかという哲学を講演しました。その時に感極まって女性の将校が壇上に上り奇声をあげて、抱きついてきて顔中にキスの雨を降らしました。

その女性将校はアメリカからわざわざ休暇をとって飛行機でやって来たそうです。5年前にインドのカリアップ先生流のヨーガを教わっていました。ストレスがきたら、それを一瞬で消してしまおう。大きいストレスを手なずける。自分の人生を充実させて生きてゆくには、ストレスは気にしない。肉体と心は違う。とんでもないストレスが50きたら5ぐらいで心は受けなさい。心の自立・確立・心身統一という話をアメリカで聞いた。さらに3年前にクンバハカを教わった。貴女はクンバハカを研究してよいと言われ、紙を貰ったそうです。その時に体をコップと考える。コップの中に水を充満させて、一瞬呼吸を止める。これがクンバハカのヒントであると言われて、3年間考えているけど分からない。それで日本に来たら、よくぞ秘訣を教えてくださいと言って感極まって飛び上がって、喜んでボロボロ涙を流し、気がついたら壇上に上がっていたということです。

大きいストレスがかかる、または健康面なんでもいいから困ったなあと思ったときに、天風先生がクンバハカという秘訣を行う。

肩の力をふっと抜く、下っ腹に力を一緒に肛門をギュッと締める。やってみて思ったのは、肩の力を抜いて下っ腹を同時に行うのは、なかなか難しいから1つだけやれば良いと思います。

それは肛門をキュッと閉める。もの凄いストレスがきたら閉める。たらないと思ったらまた閉める。それを繰り返すことによって天風先生に近づくなと思います。

時間がまだありますから、やってみましょう。

座ったままでいいですから、肩の力を抜きます。腹式呼吸を一緒にやって下っ腹に手をあて押す。押したら空気が口から出る。それで手を離す。そうすると、息をしたから苦しいので息を吸いますよね、鼻から吸う。それで、吸った息は下っ腹にスーとおさまってくるというイメージで、押して息を出す、放して息が下っ腹に集まる。あと肛門をキュッと閉める。

これをゆっくり三つやるのではなくて、一斉にいっぺんに行います。肩の力を抜いて下っ腹に息を収めて力を入れます。それで肛門を閉める。

最期の秘訣クンバハカを申しあげて、終了にいたします。